

187年

中平四年（漢）

皇帝

劉宏（漢靈帝）

皇后

何氏（諱某・南陽宛県）

皇太子

（空位）

三公

太尉：張温(前車騎將軍・186~187) 崔烈(前司徒・187) 曹嵩(前大司農・187~188)

司徒：崔烈(前太僕・185~187) 許相(前司空・187~188)

司空：許相(前光祿大夫・185~187) 丁宮(前光祿勳・187~188)

その他の要職

太僕：？

大司農：曹嵩 ？

光祿勳： 丁宮 ？

大將軍：何進（前河南尹・愼侯）

車騎將軍： 何苗（河南尹・濟陽侯）

地方官

河南尹：何苗（濟陽侯）

涼州刺史：耿鄙

主な事件

- ▶ 春正月己卯 天下に大赦する《後漢書孝靈帝紀》
- ▶ 二月陽の賊数千人叛旗して群県を攻略し中牟令を殺す。注に引く劉又 *紀に曰く、令の落皓及び主簿の潘業は陣に臨んで顧みず害される《後漢書孝靈帝紀》
- ▶ 己亥、南宮内殿の連門曲閣が自ら壊れた《後漢書孝靈帝紀》
- ▶ 河南尹の何苗が陽の賊を討ち、之を破る。何苗は車騎將軍を拜す《後漢書孝靈帝紀》詔にて何進の弟で河南尹の何苗を出させ平定し還る。何苗を車騎將軍と為し、濟陽侯に封ず《後漢書竇何列伝》
- ▶ 夏四月、涼州刺史耿鄙が金城県の賊韓遂を討つが、大敗する。韓遂は漢陽を寇略し、漢陽太守傅燮は戦没する。扶風の人馬騰、漢陽の人王國は並んで叛き、三輔を寇略する《後漢書孝靈帝紀》

太尉の張温は免じられ、司徒の崔烈を太尉と為す《後漢書孝靈帝紀》

- ▶ 五月、司空の許相を司徒に、光祿勳で沛国の丁宮を司空と為す《後漢書孝靈帝紀》
- ▶ 六月、洛陽の民が男の子を生み、両頭共身であった。注に引く劉乂*紀に曰く、上西門の外の劉倉の妻が生んだ《後漢書孝靈帝紀》
- ▶ 漁陽の人張純が同郡の張舉とともに叛き、右北平太守の劉政、遼東太守の楊終、護烏桓校尉の公[其糸]稠等を攻め殺す。張舉は天子を自称し、幽州・冀州を寇略する《後漢書孝靈帝紀》
- ▶ 秋九月丁酉、天下に令し罪が未決の者は絹を入れて購わせた《後漢書孝靈帝紀》
- ▶ 冬十月、零陵の人で觀鵠が平天將軍を自称し、桂陽を寇略する。長沙太守孫堅が撃ち之を斬る《後漢書孝靈帝紀》
- ▶ 十一月、太尉崔烈が罷め、大司農の曹嵩を太尉と為す《後漢書孝靈帝紀》
- ▶ 十二月、休屠各胡が叛く《後漢書孝靈帝紀》
- ▶ 是年、関内侯を売り、金印紫綬を假す。世に伝う五百萬錢《後漢書孝靈帝紀》

誕生者

曹丕（子桓）：冬[言焦]で生まれる。《三国志魏書文帝紀》

死没者

[PAGE TOP](#)

[186年 <<](#) [>> 188年](#)